

テーマ

内と外から見た日本語の世界

適用
分野

日本語学、日本語教育



研究
名称

格助詞から見た日本語文法の研究

氏名
所属

佐伯暁子 教授
文学部 日本語日本文学科

内容

●特徴

私たちが毎日使っている日本語は、実はとても奥深いものです。その奥深さを日本語文法の視点から研究しています。特徴は3つあります。

一つ目は、中学校や高校で学ぶ日本語文法とは少し視点を変えて、日本語について考える点です。これまでの枠組みはひとまず横に置き、問題意識を持って観察します。

二つ目は、外国人には日本語がどのような言語に見えるのか、日本語を言語の一つとして考える点です。日本人が英語や中国語を学ぶように、外国人は日本語を外国語として学びます。外国人に日本語を教えるには、日本語の文法への理解は不可欠です。

三つ目は、身近な日本語をちょっと立ち止まって考えてみることで、日本語を丁寧に取り扱うことにつながる点です。

以上のように、日本語を観察することで得られる再発見はたくさんあると考えています。

●研究内容

毎日、日本語を読み、話し、聞き、書いている私たちにとって、日本語はとても身近なものです。しかし、改めて考えてみると、よくわからないこともあります。例えば、「学生を教える」「英語を教える」はそれぞれ正しい文ですが、この二つの文を合わせて「学生を英語を教える」と一つの文にすると、間違いになるのはなぜでしょうか。「100ページの本を読んだ」と「本を100ページ読んだ」は同じ意味でしょうか。このように、日本人にとっても難しい日本語は、外国人にとっては、かなり難しい言語だと言えます。

日本語文法への理解を深めることで、コミュニケーションの第一歩として、相手に正確に伝えることができるようになります。また、外国人に的確に教えられます。

キーワード

日本語、国語、文法、助詞、語彙、日本語教育、異文化理解

連携方法

■ 講演 □ 研修 □ 研究相談 □ 学術調査 □ コメント ■ 共同研究